スクールカウンセラー（各論）

生きづらさをどのようにアセスメントするか？

3軸からみるアセスメント－生きづらさを観る

症状の意味

①目に見える症状

▼ ▲

②関連する問題

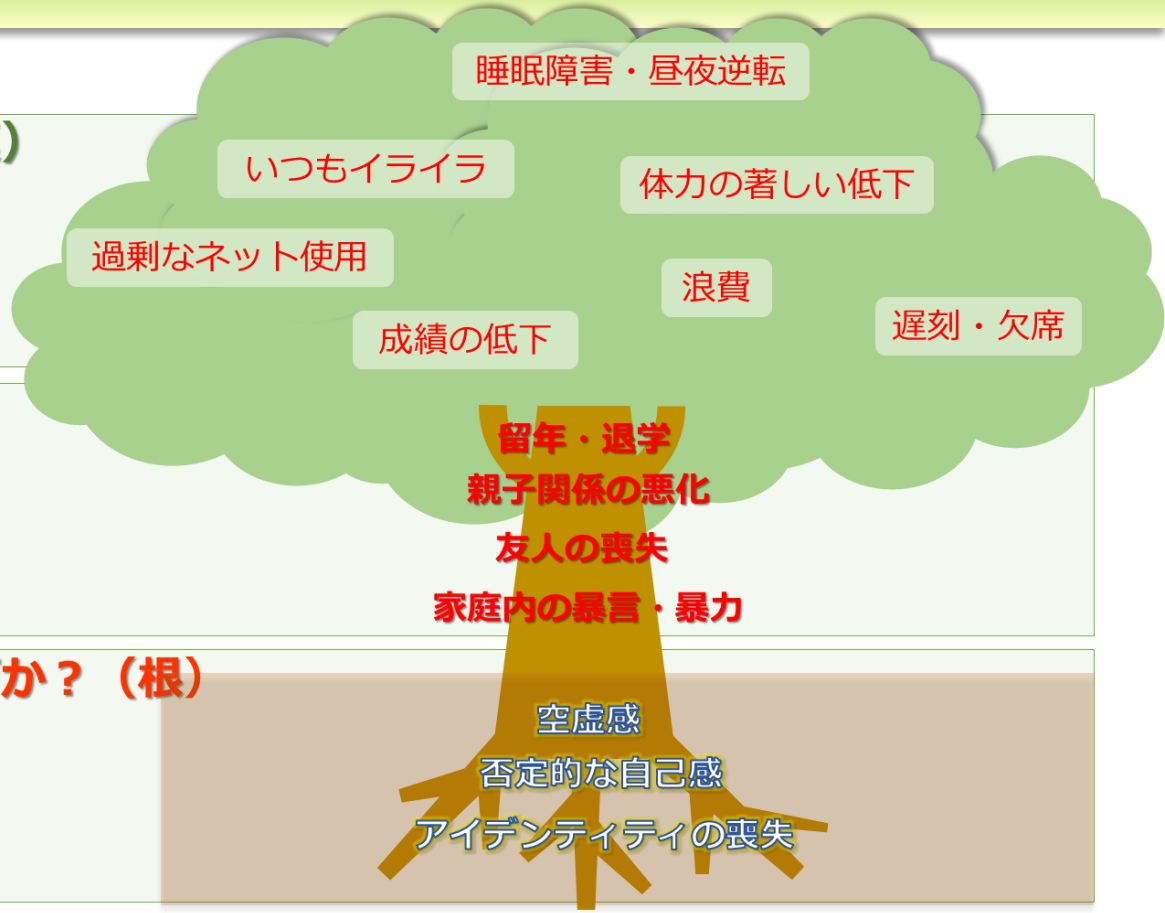
▼ ▲

③生きづらさ

①目に見える症状は何か？（葉）
- 成績が低下する
- 遅刻・欠席が目立つ
- 睡眠障害・昼夜逆転

②関連問題は何か？（幹）
- 親子関係の悪化
- 友人がいなくなる
- 留年・退学の可能性が大きくなる

③本人の抱える生きづらさは何か？（根）
- 期待に応えられないふがいなさ
- 「自分らしさ」がわからない
- 友人との「つながり」が作れない



一つの原因に固執せず背景にある生きづらさに目を向ける

× ゲームをやめる　学校にいくことを目標とする

→ ゲームをする「意味」は？　学校にいかない背景には？

本人の対応ーゲームの「話題」から入る

○ゲームの話題から入ることの利点・コツ

- 本人が話しやすい、共感を向けやすい　－安心の確保
- ゲームの中での本人の振るまい方　－価値観の理解
- ゲームについて教えてもらう　－役割の付与
- 希求するものの背景、満たされないもの－生きづらさ理解

ゲーム・コンテンツに求めるもの

達成感　わくわく感　成長・向上感覚　幸福感　安心感　共感　承認感

▼

生きづらさの理解

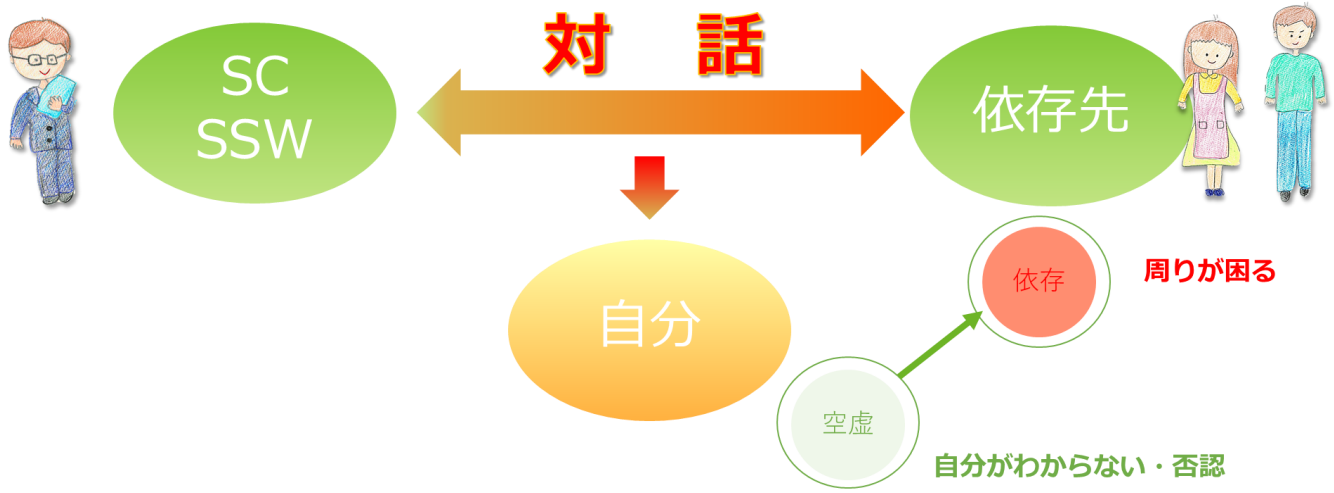
治療動機がない面接のあり方

ファースト・クライエントという考え方

困っている人からアプローチする

ファースト・クライエントは誰か？という視点

ファースト・クライエント：始めて外部に相談して支援を求めた人、つながった人



本人は「わからない」「否認」が背景にある場合が多く登場しないことの方が多い

▼

困っている人からアプローチする－母、父、または担任

関係性のアセスメント

それぞれの関係性をどのようにアセスメントするか？

ー困り具合がみえる表の活用ー

関係者の思惑のアセスメント－困り具合の図

養護

- 健診のときに母と話したことがある
- 母も心配性であったが、困っていた
- 担任は、すこし自分で抱えすぎ、もう少し、周りに相談をしてくれたら

担任

- 不登校の原因は、保護者が甘やかし過ぎている
- 本人をなんとか説得したいが、コンタクトがとれないもどかしさがある
- 転学の可能性も視野に入れる
- 不登校の生徒にかける負担がある
- なかなか本人が登場してくれない

管理職

- 担任が抱えすぎていることの心配
- ベテランの担任だから、プライドがあってそれを壊したくない
- SCがなかなか来てくれない
- 学校でなんとかしなければならない

級友

- いい人だけど、よくわからない
- はじめは話したけれど、最近は話さない
- 最近は学校きていない、メンタル弱そう

本人

- 成績が下がると父が不機嫌になる
- 母はいろいろ口をだしてくる
- ゲームをやめろとうるさい
- 家にも家庭にも居場所がない
- 母だって父に何もいえない

- ゲームで同じ境遇の人がいる安心
- ゲームで「課金」勢がずるい
- ゲームで周りに迷惑をかけられない
- 配信とかして、ゲームで稼げそう

母

- 暴言が増えてきて悪化するのでは
- 夫が勉強に固執している
- 夫からは自分の対応が原因と思われる
- 自分も育て方が悪かったと思う
- 本人が何を考えているかわからない
- 進学・受験ができなくなる
- 夫が勉強にこだわり過ぎるのが問題と考えている

父

- 学歴がないと社会にでたときに苦労するので、勉強の必要性がある
- 自分も学歴で失敗して望んだ仕事につけず、苦労してきた
- 妻が甘やかしすぎてる

Net友達

- 次の大会に出るために練習が必要
- 家庭の事情で、ゲームの練習に出れる日と出れない日があるのが困る
- Teamからはずそうか迷っている
- プレイがうまいから必要でもある

- 先生は、いい人だけれどあまり相談したことがない
- 友達のグループに入れなかった
- みんな勉強をしている
- 点数が低いと見下される感じがする

面接時の対応方法

本人の面接・保護者の面接における対応のコツについて

面接時対応のポイント－保護者の対応

責めない

〇問題を引き受けて罪悪感を抱えていることが多い。ここを責めることで、自分を責めたり、周りを責めて、悪循環につながってしまう。

変えない

〇保護者の価値観に対して、違和感があっても、説得するのではなく、まずは「尊重する」ことからはじめ、率直な自分の思いを語ってもらうことを促す。

固執しない

〇保護者にも否認が生じて、何が「問題」「原因」となり、問題が固執しやすい。語られる内容から、様々な「課題」をみて広げていくことを重視する。

「治す」のではなく
「対話」を促し「つなぐ」ことを目標とする

面接時対応のポイント－本人の対応

責めない

〇周りから「責められる」事を続けて「自分らしさ」が保てずに、自己否定感が強くなっている場合が多い。責めてしまうと、抵抗感が増して孤立につながってしまう。

変えない

〇本人の価値観に対して、「親の気持ち」に流されたり、違和感を感じることがある。説得するのではなく、まずは「尊重する」ことからはじめ、率直な自分の思いを語ってもらうことを促す。

固執しない

〇否認が生じると「問題」や「原因」（犯人捜し）に固執しやすい。語られる内容・言動振る舞いから、様々な「課題」をみて広げていくことを重視する。

「治す」のではなく
「対話」を促し「つなぐ」ことを目標とする

グループ面接の方法

相談室における家族（教員も含む）グループ面接のポイント

合同面接時のポイント－対話の練習の場として

枠組をつくる

〇司会者をたてる（SC・担任）

〇批評、批判しない－安心安全の場を作る（ルールの確認）

〇順番の配慮－最初に話すひと・最後に話すひとを意識する。

「自分」を語る

〇「あなた」ではなく、「自分」を主語にして想い・感じていること、自分の「物語」を話す。

〇それぞれの話す時間を確保して、「自分」の語りを尊重しながら聞く

互いの理解を深める

〇可能であれば、3周くらい順に話す機会・時間を確保する。

〇専門家としてのアセスメントを伝えて、理解を深める

解決するのではなく
理解を深めることを目標とする

コンサルテーションの提案

コンサルテーション

①困り具合の表を活用して関連する問題のアセスメント

アセスメント

②「つながり」先の提案－専門機関の紹介

提案

③本編－教員用の動画、保護者用の動画の活用

介入

専門医療機関との連携

専門機関の連携－専門機関は何をしてくれるか？

①さいたま市心の健康センター（さいたま市民）
精神保健福祉センター（さいたま市民以外の県民）　・　保健所

役割	対象	できること	特徴
地域へ「つなぐ」ことを 医療機関へつなぐこと	本人・家族 教員・SC・SSW（関係者）	・本人・家族の相談 ・問題のアセスメント ・地域への橋渡し	短期的な関わり 料金：無料

②医療機関

本人の治療 診断・診察 投薬・検査等	本人	・疾患の診断・投薬 ・検査（精神・発達障害） ・入院治療	医療的な関わり 料金：保険診療

③民間の相談室

相談・カウンセリング	本人・家族	・本人・家族の相談 ・問題のアセスメント ・カウンセリング	長期的な関わり 料金：自費

専門機関の連携－専門機関への連絡のコツ

①精神保健福祉センター、保健所の場合

・生徒、または家族の「誰がどのように困っているか」「何を依頼したいのか」を明確にする。

※「不登校」を主訴にしない　→　「家族関係について困っている」という点を主訴にする

・依頼先に何を依頼したいかを明確にする。

・キーパーソンは誰か（誰が相談にいくか）を明確にする。

→これまで学校での問題・課題の経過伝え見立ててもらう。

②機医療関の場合

本人が受診できないと、断れてしまうことが多いことを理解する。

本人が受診できないときは、まず家族の相談として①・③につなぐことを検討する。

③民間相談室

相談室によって形態が異なるので、方法や内容を調べてから連絡する。